

心の旅、自転車日本縦断

聴覚障害者の監督映画に 27日公開

生まれつき耳が聞こえない映画監督の今村彩子さん(37)が「コミュニケーション」をテーマに沖縄から北海道までを自転車で縦断する自分たちの57日間の旅を追ったドキュメンタリー映画「Start Line」(112分)が27日、大阪市阿倍野区であるヒューマンドキュメンタリー映画祭《阿倍野》で公開される。



映画の一場面。自転車で日本を縦断する今村さん

今村さんがクロスバイクと出会ったのは2年前。その年の8月に一番の理解者だった母を、11月には祖父を亡くし、映画を作る意欲を失った。自転車に久しぶりに乗ると前向きな気持ちになり、日本列島を縦断する旅を映画にしようと思いついた。

小学生の頃、友達に輪に入れずさみしい思いをした。聞こえないのを理由に会話を避けていた自分。「殻を破ろう」と、出会った人とのやりとりを映像で記録するため走り出した。

友人で大型自転車店の専門スタッフ堀田哲生さん(41)がカメラを回し、伴走し



日本縦断を終えた今村さん(左)と堀田さん=いずれも©Studio AYA

友人、カメラ回し伴走 300人と出会う

てくれた。2人で安全に走れるよう、耳が聞こえない今村さんが「曲がり角では後ろを振り向く」などのルールを決めた。初日からルールを無視され、堀田さんが今村さんを叱る場面も映る。

道中、自転車で旅をする「仲間」に声をかけられずにいる今村さんがいた。代わりに堀田さんが声をかけたが、会話が続かない。「この人聞こえてないんだ」と思われるのが恥ずかしく一歩踏み出せない今村さんは自己嫌悪に陥った。

だが、大阪市内の聴覚障害者の夫婦の家に泊めてもらった時、堀田さんの「聞こえないことは不便なこともあるけどいいこともある」という言葉にハッとさせられたという。北海道では同じように自転車で走るオーストラリア出身の聴覚障害者の男性と出会った。誰でも積極的に関わろうとする姿を見て、「コミュニケーションが苦手なのは聞こえないからではない」と気づかされた。

旅を終え、「目標だったコミュニケーションも監督らしい撮影もできなかった」と落ち込む今村さんに、堀田さんは「できなかったことを映画で表したら？」と言った。けんかど仲直りを繰り返しながら前に進む2人のやりとりそのものが「コミュニケーションとは何か」を考えさせるきっかけになると思う。

走行距離3824⁺。26都道府県で約300人と出会い、349時間半にわたってカメラを回した。「自信を持ってない人、コミュニケーションに悩む人、新たな一歩を踏み出せない人に見てもらいたい」と今村さん。映画祭の詳細は<http://p://www.hdff.jp>へ。10月1日からは大阪市淀川区の第七芸術劇場(<http://p://www.nanagei.com/>)でも上映される。日本語字幕付き。

(寺尾佳恵)